

「暮らしの安全モデル校指定事業」報告

令和元年度、東濃フロンティア高等学校は岐阜県から「暮らしの安全モデル校」の指定を受けました。地歴公民科・家庭科・CT等の授業時間を通じて、消費生活に関する知識を身に付け、「賢い消費者」となることを目指して1年間取り組んできました。

主な活動

● 6月14日（金） 3年次CT（67名）

大藪千穂教授（岐阜大学教育学部家政教育講座）による人生設計についての出前授業の様子。スマートフォンを利用した「人生設計ゲーム」に取り組み、「消費」に関する基本的な知識や考え方を身につけました。

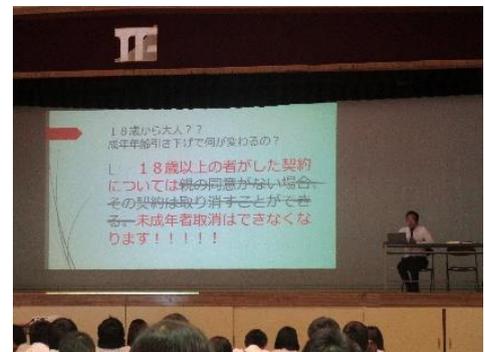


【生徒の感想】

- ・ひたすらお金を貯めることが大切なのではなく、収入と支出のバランスを考えてお金を使っていくことが重要だと分かった。
- ・一生で使う金額が予想より多かった。親が今、これだけお金を使っていると思うと、自分が親になった時のために預金をしておこうと思った。

● 10月4日（金） CT（全校生徒）

御子柴慎弁護士による、「消費者トラブルの実例と対処法」について出前講座をして頂きました。ワンクリック詐欺などの身近な消費生活に潜む危険や、万が一消費者トラブルにあった場合の対処法について学習しました。



【生徒の感想】

- ・今まで未成年ということで親などに保護されてきたが、今後は自分1人で責任を負わなければならない事と、そのために必要な知識や方法を知ることが出来て良かったです。
- ・自分が騙されたり、生活に不安があったりした時は、今日教えてもらった「188」に相談をして、これらかの生活を安心して過ごせるようにしたいと思います。

● 10月23日（水）・24日（木） 文化祭展示

文化祭では、家庭科と公民科の授業を受講する生徒が、消費生活についての啓発ポスターを作成し、それらを作品として展示しました。消費生活についてこれまで学んだことを絵やグラフにまとめて分かりやすく提示し、全校生徒や保護者に向けての啓発活動を行いました。



家庭総合受講者は、私たちの消費生活と地球環境との深い関係に目を向けさせるために、オリジナルの川柳をつくり模造紙にまとめました。絵やデザインにも工夫を凝らし、自らの消費が社会に影響を与えることを自覚し、持続可能な社会の実現に積極的に関与すること（＝消費者市民社会の実現）の重要性を訴えた、素晴らしい作品が出来上がりました。



現代社会、政治・経済の受講者は『おっと！落とし穴』（岐阜県消費者教育副教材）を活用して、契約に関するクイズを作成したり、本校生徒の消費生活の実態についてのアンケート結果の分析を行ったりして、私たちの消費生活への理解と関心が深まるような作品を展示しました。



● 1月27日（月） 1年次 消費者教育公開授業（38名）

今年度から導入されたタブレット端末を活用し、1年次生を対象とした消費者教育の公開授業が行われ、多くの方に参観いただきました。岐阜大学の藪千穂教授より提供いただいた「人生設計ゲーム」のアプリを通じて人生に必要な費用やリスクについて理解を深めました。2人1組で1台のタブレットを活用したことで、住居や結婚といった、人それぞれ異なるライフコースについて、ペアで意見を交流しながら学習することが出来ました。



生徒にとっては、タブレットやゲーム形式のアプリが親しみやすかったこともあり、どの生徒も前向きに授業に取り組んでいる姿が印象的でした。



【生徒の感想】

- ・人生設計ゲームを通じて、人生には様々なリスクや出費があり、計画的に生きていかないと老後が心配だなと感じた。
- ・お金が多いことだけが人生をよりよくするものではなく、その他の事にも充実した人生こそが、素晴らしい人生を築き上げることだと思いました。

生徒には、1年間かけて身につけた「賢い消費者」としての力を活かし、消費者トラブルから自分の身や財産を守れるようになるとともに、「消費者市民社会」の一員として自分の消費に責任を持ち、自分の人生をより良いものにするような「選択」ができるようになることを期待します。